

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会  
第 50 回 LLW 放射能評価分科会議事録

1. 日時： 2023 年 7 月 24 日（月） 13 時 00 分～14 時 30 分
2. 場所： 対面と Webex を使用しての Web 会議  
(対面会議の参加者は別紙の座席表を参照のこと)
3. 出席者 (順不同、敬称略)  
(出席委員) 高橋 (主査)、相澤 (副主査)、新崎幹事、尾崎、小澤、菅原、鈴木、宝珍 (田辺委員代理)、田村、中田、中林、原賀、伴場、松居、見上、三宅、吉岡 (17 名)  
(欠席委員) 泉田、大畑、柏木 (3 名)  
(出席常時参加者) 梅原、小瀬村、副島、高橋、野田、林<sup>(隆)</sup>、林<sup>(宏)</sup>、古田、宮田、本山  
(欠席常時参加者) 竹内、中瀬、中野、野崎、村上  
(オブザーバー) (委員候補) 向原、  
(オブザーバー) (常時参加者候補) 見付、鈴木、大野、河内山、眞壁  
(オブザーバー) 藤原サイクル専門部会幹事

4. 配付資料

F10Ph2SC50-1\_第 50 回分科会\_議事次第  
F10Ph2SC50-2\_人事について (配布せず)  
F10Ph2SC50-3\_第 49 回 LLW 放射能評価分科会議事録案  
F10Ph2SC50-4-1\_第 5 回検討チーム会合\_L1 放射能濃度決定方法に関する技術評価書 (案)  
F10Ph2SC50-4-2\_第 5 回検討チーム会合\_議事メモ r2  
F10Ph2SC50-4-3\_L1 放射能濃度決定方法に関する技術評価書 (案) に対する意見集約  
F10Ph2SC50-4-4\_標準委員会\_技術評価対応への振り返り (集約状況中間報告)  
F10Ph2SC50-4-5\_標準委員会\_技術評価対応への振り返り\_議事メモ  
F10Ph2SC50-4-6\_関村先生コメ対応 1\_技術評価対応への振り返り rev17  
F10Ph2SC50-4-7\_関村先生コメ対応 2\_関係者内で共通認識しておくべき事項  
F10Ph2SC50-5\_2023 年度の倫理教育について

5. 議事

(1) 出席者/資料の確認

会合開始時点で、委員 20 名のうち 17 名が出席 (代理出席を含む) しており、定足数(14 名以上)を満足している旨の報告が新崎幹事よりあった。また、配布資料の確認を行った。

(2) 前回議事録案の確認

前回分科会の議事録案 (配布資料 F10Ph2SC50-3) について、新崎幹事より、事前送付時のコメントはすべて反映済である旨説明があった。本分科会においても、コメントなく承認された。

### (3) 人事について（審議）

新崎幹事より、F10Ph2SC50-2に基づき、2名の新委員の選任について報告があり審議され、審議・投票の結果、了承された。

上記の人事案件についての報告・審議結果は、8月3日開催予定の原子燃料サイクル専門部会に付議される。

#### ① 新委員の選任

宝珍 禎則（日本原子力発電）

向原 民（テプコシステムズ）

その他、委員2名の退任、常時参加者の登録解除と登録承認について確認した。また、主査の指名により新崎幹事から田村幹事への交代が確認された。

### (4) L1 放射能評価標準の原子力規制庁による技術評価への学会対応状況について（報告）

L1 放射能評価標準の原子力規制庁による技術評価に係る第5回検討チーム会合において、F10Ph2SC50-4-1のとおり技術評価書案が提示され、議論の結果についてはF10Ph2SC50-4-2のとおりであった旨、新崎幹事より報告があった。

また、F10Ph2SC50-4-3のとおり、学会対応チームにて技術評価書案に対する学会意見を集約し原子力規制庁に提出したことが新崎幹事より報告された。

今回の技術評価を通じて改善点等を整理するため、学会対応チームにて振り返り資料（たたき台）を作成し、6月7日の標準委員会に報告した際のコメントについて紹介するとともに、コメントを反映した振り返り資料案（F10Ph2SC50-4-6）について田村委員より報告があった。

C：検討チーム会合では、放射化計算のための ORIGEN2 などの前提条件まで検証を求められたが、このようにすべてのケースについて学会標準を議論する場で担保することは現実的ではない。学会標準の議論の場は多くのステークホルダーが最初から関わる必要があり、このようなプロセスは世界共通である。規制機関も参画していることも世界的には共通である。幅広く新技術を収集しそれらを元に議論を進めていくということが学会の強みであり、このスタンスは維持すべきである。

Q：今回示した振り返り資料では、技術評価要望者である事業者と学会の関係で改善すべき点があるという認識で整理しているが、主査が言われたように規制庁が標準策定段階から参画するよう要望することも振り返り資料に反映すべきかどうか各委員のご意見を伺いたい。

A：規制庁の技術評価を前提としている標準については、今後規制庁が委員として参加することは可能と思われる。

Q：振り返り資料では、学会標準の場のあるべき姿を目指すということを強調する意味で、技術評価を前提とした標準に限定した記載にはしないことによるのか。結果として、当面は技術評価を前提とした標準の議論から規制庁が参画することになるのはやむを得ないが。

A：その方向で振り返り資料を修正し、LLW 放射能評価分科会のクレジットで原燃サイクル専門部会に報告することにする。

(5) 2023年度の倫理教育について（報告）

新崎幹事より、2023年度の倫理教育方針について報告があった。9月ごろにあらためて委員全員に教育資料を送付し受講結果を報告していただく。

(6) その他

次回会合については、高橋主査、相澤副主査及び田村新幹事で調整の上、後日、具体的な日時について連絡されることとなった。実施形態については対面形式も含め検討していく。

以 上

座席表

中  
田  
委  
員

藤原サイクル  
専門部会幹事  
(オブザーバー)

高橋主査

第 50 回 LLW 放射能評価  
分科会

開催日：

2023 年 7 月 24 日（月）

13：00～

開催場所：

対面会議（原環セ第 1 会議  
室）と Webex を用いた

Web 会議とのハイブリッ  
ド開催

大  
型  
モ  
ニ  
タ

田  
村  
委  
員

新  
崎  
幹  
事